

■ 講評

計画、設計段階からユニバーサルデザインを目指した宿泊施設で、ハートビル法認定建築物であるホテルINN at ARAIは、客室148室のうち、ユニバーサルルームを18室整備しており、さまざまな利用者に対してきめ細かい配慮がなされている。

ユニバーサルルームでは、視覚障害者対応として点字付きコントロールパネル、ドアチャイムは音だけでなく、聴覚障害者対応として光でも知らせる設備等を設置し、バスルームでは、車いす利用者にも使いやすい洗面台や浴槽を設置し、ベッドは間隔をあけ、ゆとりを持って配置している。

ARAI MOUNTAIN&SPAは、全施設において段差が解消されており、廊下、ラウンジ、階段、視覚障害者誘導用ブロック等は床材を変化させ、識別できるように対応している。

プール及び共同浴場においては、館内案内図は点字を付けた触知案内板とし、プールはスロープを付け、水中使用可能車いすを配備し、車いすのまま入水可能となっている。浴室においても、手すり、高さの異なる洗い場を設定している。

また、ソフト面においても、補助器具等を使用した障害者専門のスキープログラムを実施し、その充実を図るとともに、3年間連続でジャパンパラリンピックスキー競技大会を招致開催、さらに世界各国のオリンピック経験のあるスキーヤーを招き、スキーを通じ障害者と交流を図るなど、充実した内容となっている。

さらに、障害別の指導員研修や救助法の研修など、社員の教育・研修にも力を注いでいる。また、施設設備を担当する「開発室」とすべての来場者の利用体制を整えるための業務を行う部署「アクセサブルプログラム」を設置しそれぞれに担当者を配属し、きめ細かい企画運営及び検証作業を行うとともに、「こ米場シート」により、特別な手配を必要とする利用者の社内での情報の共有化を図っている。



スロープ・手すりつき 屋外プール



ユニバーサルルーム 洗面台&トイレ



プラザ（融雪装置設置）から見たホテル（「The Club」「The Lodge」「INN at ARAI」）



菱形模様の視覚障害者誘導用ブロック